

# 景気景況調査報告

(第14回)

平成31年 4～ 6月期 実績  
令和元年 7～ 10月期 見通し

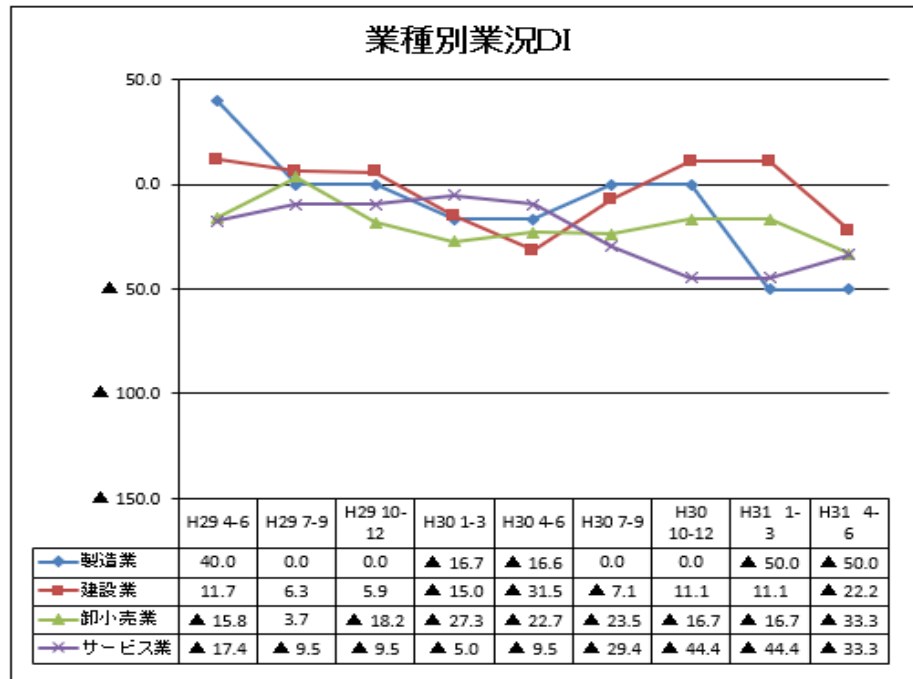
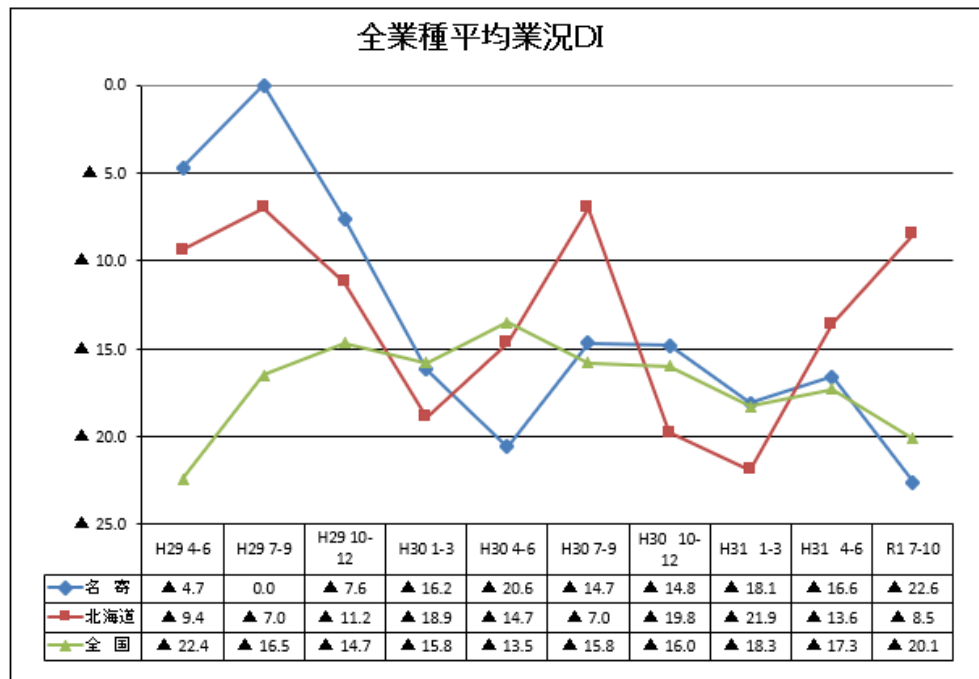
令和元年8月

名寄商工会議所

## I 調査要領

- ①調査対象期間 平成31年4～6月期の実績及び令和元年7～10月期の見通し
- ②調査内容 製造業、建設業、卸小売業、サービス業の4業種に分類し、売上高、採算、仕入、従業員、業況、資金繰りの6項目について調査を実施。
- ③調査対象 当所会員企業（FAXで協力願い） 62社

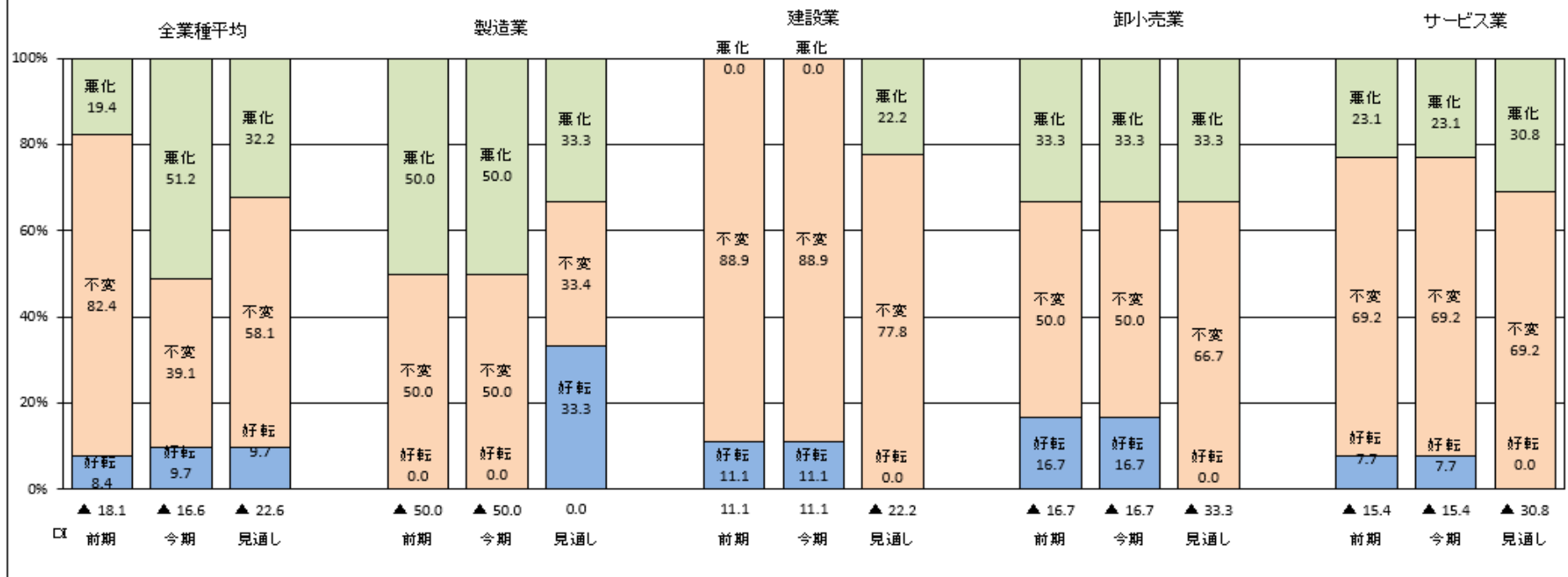
## II 調査結果



※DI：「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

- ・今期、全業種平均で▲16.6ポイントと前回調査と比べ1.5ポイント上昇となっているが、建設業が前回1.1→今回▲22.2と大幅にマイナスとなっている。
- ・北海道（道商連調査）の景気と比較すると、今期▲3.0ポイント悪く、見通しでも▲14.1ポイントマイナス幅が拡大する見込みとなっている。
- ・全国（日商調査）の景気と比較しても、今期0.7ポイント良いが、見通しでは▲2.5ポイントマイナス幅が拡大する見込みとなっている。
- ・名寄市の見通しが今期よりマイナス幅が拡大する要因としては、原材料の上昇・輸送費の上昇・人件費の上昇・消費税の増税との回答が多数あり。
- ・業種別では、サービス業が実績で改善傾向となっていますが、建設業と卸小売業では悪化となっております。

## 業種別業況回答割合

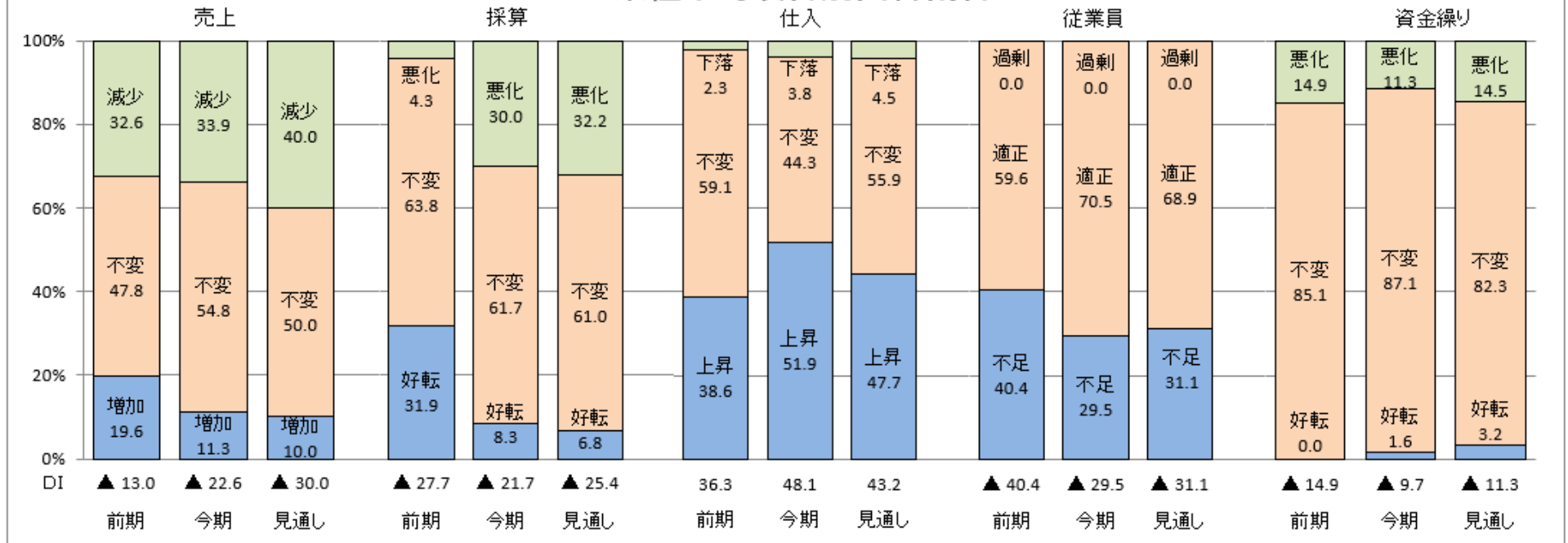


※D I : 「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

- 製造業～ 今期は前期と同様、「不変」「悪化」が半々となっている。  
見通しでは今期と「好転」「悪化」ともに33.3%となっており、「悪化」が減少する見通しとなっている。
- 建設業～ 今期は前期と同様となっており、見通しでは「悪化」22.2%増加。物価の上昇、公共・民間工事の減少や消費税増税により業況が悪化しているとの回答。
- 卸小売業～ 今期は前期と同様となっており、見通しでは「悪化」は横ばいとなっているが、「好転」回答がないため厳しい状況となっている。
- サービス業～ 今期は前期と同様になっており、見通しでは「悪化」7.7%増加しており、「好転」回答がないため継続して厳しい状況となっている。

全業種平均では、今期は前期より「悪化」▲31.8%増加。見通しでは「悪化」19.0%減少となっているが、「好転」回答が今期と同様の見通しとなっているためもないため景気回復の兆しは不透明である。

## 全業種平均項目別回答割合



**売上DI** 今期▲22.6ポイントと前期より▲9.6ポイントマイナス幅が拡大。見通しでは▲30.0ポイントマイナス幅となっている。  
 [悪化の要因] ・公共工事の減少、発注減少 ・高齢化 ・インターネット化 ・人口の減少

**採算DI** 今期▲21.7ポイントと前期より▲6.0ポイント増加となっている。見通しでは今期と変動が少なく横ばいとなる見込。  
 [悪化の要因] ・燃料価額の上昇 ・運搬費の上昇 ・増税に伴う税対策

**仕入DI** 今期▲48.1ポイントと前期より13.3ポイント増加。見通しでは5.7ポイントと減少傾向となっている。  
 [上昇の要因] ・人件費上昇による値上 ・資材や原材料の高騰 ・消費税の増税 ・輸送費の値上

**従業員DI** 今期▲29.5ポイントと前期よりも10.9ポイント増加となっている。見通しでも改善傾向がみられず従業員不足が懸念される。  
 特に建設業による不足の声が多いが、広範な業種において人手不足は深刻な状況となっている。  
 [不足の要因] ・高齢化 ・適任者がいない ・応募者がいない

**資金繰りDI** 今期▲9.7ポイントと前期から5.2ポイント増加。見通しでは今期と変動は少ないが依然、資金繰りが厳しい状況。